

## 令和6年度 施設管理者からのニーズ一覧（第2回）

ニーズ番号	土木分野	ニーズ分類	対象とするニーズ	条件等
24_1_1	道路	新技術の導入	路面性状調査における点検業務	実際に損傷、劣化している箇所と、工事による舗装復旧箇所との判別を、AI技術を使用することにより効率的に判断できる方法を知りたい。 排水管、配水管の埋設箇所は、帯状に舗装復旧しており、振動などで損傷と判断される場合があるため、AI技術で判別できれば調査効率が向上すると考えます。
24_1_8	道路	組織・体制の強化、人材育成	市道に係る認定区域、舗装構造や工事履歴等の情報一元化の手法	現在、本市では財産管理、機能管理、日常管理と道路管理者が複数の部署に分かれている。そのため、情報が点在しており、検索に多くの時間を要している。 そこで、担当職員が閲覧できるよう各種情報を一元化するとともに、AIやICT技術の活用により収集できるメンテナンスデータを連携することができるプラットフォーム構築の手法を知りたい。 さらに、道路だけではなく、水路や河川等に拡充していくことで、総合的な整備計画等に利用可能な手法があれば知りたい。
24_1_11	下水	その他	下水道圧送管の調査及び点検について	一部のマンホールポンプには平面位置しかわからない圧送管があり、縦断（深さ方向）が不明な箇所があり点検箇所の選定に苦慮している。 圧送管の埋設高さの調査について、効率的かつ安価な調査方法を知りたい。また調査後に点検が必要となった圧送管についても効率的かつ安価な点検・診断方法を知りたい。
24_1_12	営繕	その他	公営住宅の水回りの点検について	公営住宅の水回りの効率的かつ安価な点検・診断方法を知りたい ※水回りに関しては予防保全の対策を講じることが難しいため、不具合が起ってから修繕する、という対応になっている。特に、配送管にあたっては、地下や構造物等に埋設されているものもあるため、不具合の原因の特定に時間を要している。
24_2_1	道路	新技術の導入	橋梁の点検における新技術の活用について	道路メンテナンス事業において、橋梁点検業務を実施しており、今年度から3巡目が開始され、国からも新技術の活用によるコスト削減効果について数値目標を求められています。 特に点検手法の中で、吊足場での点検や点検車による点検等がある中、このような点検手法より安価で実績があり、効率的に点検が行える新工法があれば知りたい。
24_2_2	河川	新技術の導入	河床整理・河道掘削における河川の堆積土量の把握に係る土量調査（図面・数量）について、新技術の導入等により予算削減・業務の効率化	<背景> 河床整理・河道掘削について、試行的にUAV（ドローン）による写真測量を実施し、3D点群システム・3DCADを使用して、河川の堆積土量の把握を検討しているが、草木が繁茂している場合に点群システムが適切に作成できず、堆積土量の図面、数量を把握できないことが課題となっている。 このことから、草木が繁茂している状態においても、堆積土量を適切に把握できる新技術の活用を検討したい。 河床整理・河道掘削における河川の堆積土量の把握に係る土量調査について、草木が繁茂している場合でも適切に土量を把握でき、職員の労力削減が図れること